

名のないお宿

For the memory of Miyazaki

In 1993 ~ 2008



名のないお宿

みんなちがって、みんないい が普通になりますように

思いがけず転勤となって宮崎を離れることになりましたが、この15年間を共に過ごした皆様に感謝申し上げます。この間の記録として何かあるかなと考えたとき、業績集なども思い浮かびましたが、一般に公開して面白いものでもない。この間の親しい思い出を共有できるものとして、公的には通園保育の卒園誌“はぐくみ”、私的にはみやざき地域療育ネットワーク研究会のお知らせに書いていた雑文(蛇足)が思い浮かびました。気軽な読み物として一部加筆訂正してまとめることで、宮崎での区切りと皆様への感謝に代えたいと思います。

“はぐくみ”で、なにかテーマといえるものがあるかなと思って読み返してみると、特に意識した訳ではありませんが、金子みすゞの「みんなちがって、みんないい」という言葉が思い当たります。宮崎に赴任してから間もなくして金子みすゞに出会い、心酔して、自分のテーマになっていました。「蛇足」の方は本当のひまつぶしで、くすっと笑って読み過ごしていただければ幸いです。

詩の引用が多いのは、自分の文の力不足を補い(^_^;)、併せて皆様にもすてきな詩、素敵な日本語を紹介したいという作戦です。詩が好きというとなにかきざっぽく聞こえますが、歌やカラオケの好きな人なら、みんな詩を口ずさんでいます。和歌や俳句、川柳など短い言葉に自分の想いを凝縮することを日本人は連綿と庶民レベルでも続けてきました。日本人は皆詩人です。ここにあげた詩はどれも有名で皆さん既にご存じのものも多いと思います。むかし教科書で習った詩や金子みすゞに偏ってはいますが、皆様の好きな詩が一つでも増えれば幸いです。

冊子の題名にした「名のないお宿」も金子みすゞの詩から取ったものです。詳しくは「名もない草の名のないお宿」でしょうか？ 歴史に名を刻むわけでもない我々や障がい児は「名もない草」、「名のないお宿」でしょう。しかし同時に一人ひとりが只一度しかない人生を歩んでいるかけがえのない存在、貴重な「地上の星」です。お互いが名もない存在であり、しかし支え合い、いたわり合ってお互いがお互いの安らげるお宿になればいいなと思います。

希 望

ご卒園おめでとうございます。うれしくもあり、さびしくもありの季節です。いろいろご苦労はあったでしょうが、無事この日を迎えられることを素直に喜びたいと思います。親にとって子育ての楽しみは、なんといてもこどもが成長していく喜びでしょう。発達の具合は、ゆっくりであったりめざましかったり様々でしょうが、それをみんなで楽しみにし、認め会えるのは素晴らしいことだと思います。放っておいても勝手に成長していくようなときもあれば、こちら側からの働きかけいかんで大きく発達が左右されるときもあります。そんなときが一番子育ての醍醐味を味わえるときでしょう。親の力量が問われるときでもありません。

立場上、子供たちの診察をしたり、反応の様子を評価したりしますが、評価されているのはむしろこちらの力量ではないかと思わされるときもあります。ブラゼルトン博士の新生児行動評価表というのがあります。これは新生児を評価するにあたり、その最良の状態を評価するというものです。ですから当然下手な(すぐ泣かせたりこどもの状態を崩してしまうような)医者が診察すると低い評価になってしまいます。博士が診察すると本当にこどもはいい状態を示してくれます。博士を長崎の五島列島の小島にご案内した事があります。そこの縁側で博士が赤ちゃんを抱っこすると、私があやしても泣くばかりだった新生児が、英語で話しかける博士の方に顔を向け、ゆったりとしたとってもいい表情を示してくれました。一緒に見ていたおばあちゃんが、「ありゃー、この子は生まれたばかりとに英語がわかるとバイ」とびっくりしていたのを覚えています。当然高い評価になります。果たして評価されているのは誰なんだろう...悩んでしまいます。先輩のドクターが、「こどもの能力はね、本当にわからないもんだよ、山口君。決して侮れない」とよく言われていました。

療育関係の仕事をやり始めた頃、重度の四肢麻痺のこどもを受け持ちました。時にめそめそ泣くくらいで笑うこともなく、何もわからないまま一生寝たきりだろうなと思っていました。ところが退院して何年かしたある日、「あの子が傘地蔵を描きました」と母親が絵を見せてくれました。丸と三角の拙い絵ですが、なるほど傘地蔵です。それから何年かしたある日、「あの子が描きました」と、又一枚の絵を持ってこられました。お花畑で遊ぶ二人のこどもの楽しそうな絵でした。クレヨンの色使いがとってもすてきでした。参りました。

これからも、喜びもあれば限界を身にしみて感じることもあるかと思います。ただ、希望だけはいつまでも持っていていいと思います。それも幼ければ幼いほど大きく。卒園のお祝いに私の好きな詩を贈ります。きれいなフォークソングにもなっていますので、知っている人も多いでしょう。青空とそよ風と紙風船。親にタカイタカイをしてもらって、子供たちが

空高く舞う姿が目には浮かびます。うまくいかない事があってもくじけず、希望を持って今日を生きようという応援歌とも受け取っています。

紙風船

黒田三郎

落ちてきたら
今度は
もっと高く
もっともっと高く
何度でも
打ち上げよう

美しい
願いごとのように

(平成4年度 はぐくみ より)

* * * * *



一緒に散歩を

風薫る季節になってきました。こどもとゆっくり散歩をするのにとってもいい季節です。外来で、なかなかこどもの歩行訓練がすすまないというお母さんに、「こどもと一緒に散歩したら？」というようなことをいいました。すると、「すぐ座り込んで歩こうとしないんです」という返事。う～ん、確かに歩くことだけを目的とするなら困ることかも知れないけど、本当にそれだけが大切なことなのかな？

こどもにとっては、歩くことそのものが楽しいこともあるだろうし、自分の興味のあるものに近づきたいだけなのかも知れない。しゃがみ込んで、ありさんを見たかただけなのかも知れない。一緒にしゃがみ込んでこどもの視線を追ってみたら、春のタンポポやツクシを見つけることが出来るかも知れない。歩くことも大切だけど、歩くことによって色々なことが体験できる。本当に大切なのはそっちの方かも知れません。

回診の時間、「こどもさんの一番好きなもの、興味を示すものは何ですか？」とお尋ねしたとき、しばらく考えていたお母さんの答えは「この子は風が好きですね」というものでした。お座りもままならない重度の障がいで、表情を読み取るのさえも難しい子を何もわかっていないと思いきむのは、こちらの感受性の低さ、思い上がりです。思いがけない、すてきな答えでした。きっとお母さんも一緒に、自然の息吹を肌で感じて風に吹かれているんだろうなあと思いました。

親の願望と期待でなく、こどもの視線とリズムに合わせ、親も発見の旅に出てみてください。小さいときには気付かなかったことや、小さいときの懐かしい思い出が見えてくるかも知れません。生活に追われ、受験勉強で忘れてしまっていたものが見えてくるかも知れません。そして何か見えたら、そんなチャンスを与えてくれたこどもに感謝してください。

卒園を一つの節目に、子ども親も、そして私たちスタッフも一緒に成長していければ幸いです。

(平成5年度 はぐくみ より)

風と鯉のぼり

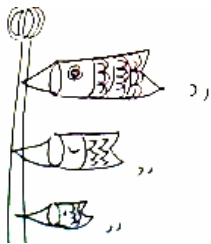
空に悠々と泳ぐ鯉のぼりが好きです。ぼっかり口を開け、これといって役に立つわけではないけれど、人を伸びやかな楽しい心にしてくれます。風と楽しそうにお話しをしているようなのをうらやましく思いながら眺めています。まるで親子の楽しい会話を聞くようです。普段は大空を吹いていく風なんて気にもかけないけれど、さすがに鯉のぼりの元気がないと、あ、今日は風が吹いてないなあ、その時はじめて風がない事を意識します。せっかく生まれた風も只吹いているだけでは淋しいし、吹いていることさえわかってもらえない。鯉のぼりがいると風もきつとうれしくて、元気が出ることでしょ。鯉のぼりも風があってはじめて生き生きします。

風がないときの鯉のぼりは、まるで親にはぐれてしょんぼりしているこどもみたい。あるいはこどもとうまくいかずに途方に暮れている親の姿のようです。こどもが鯉のぼりでお父さんやお母さんが風かも知れませんが、鯉のぼりはいい風に吹かれて元気よく泳ぎます。元気が出るも出ないも親次第。逆にこどもが風で、ちょっとくたびれてだらんとしたお父さんお母さんを元気づけているのかも知れませんが、どちらにしても、相手の存在が自分の存在を際立たせてくれ、相手の存在で自分の存在が表現されています。生き生きとするためにお互いがお互いを必要としています。共に生きるとはこんな事かも知れませんが。

平凡に見えた親が実はすごい人間だった。障がい児の親を見ていてそう思うことが度々あります。障がい児の親にならなかつたら、ごくごく普通の人生を歩いていた親かも知れませんが、障がい児の親となったとき、平凡な日常の中に隠されていたその人のすごさが発揮されているのだと思います。もちろんみんながみんな、すごい人間ではないし、だからといって平凡なことは決してつまらない事ではありません。現実を受容するまでにはすごい葛藤を経てきている事と思います。悩みも多いと思いますが、ただ親も一方的に被害者ではないし、ましてや加害者ではない。こどもから受け取るものも多くあると思います。それをどれだけ受け取る事が出来るかは、その人の知識や学歴ではなく、その人の感受性次第です。もちろん知識を得る事により理解が深まり、共感が生まれる事は十分あり得ますし、それを期待して、いろいろ勉強したり、してもらっているところです。

親がこどもの存在で自己を表現するように、我々スタッフも自分の仕事を通して自分を表現しています。皆さんが生き生きとする事によって私たちも生き生きとなり、いい仕事が出来たと思えるようになります。ここに卒園生を無事送り出す事が出来るのは、本人家族の喜びであり、我々スタッフの喜びでもあります。大空を吹く風と鯉のぼりのように、共に喜び合える関係をいつまでも持ち続けたいと思います。

(平成6年度 はぐくみ より)



みんなちがって、みんないい

早いものでもう卒園の季節になりました。この一年、急に園児の数が増え、スタッフも含め戸惑いも多かったことと思います。これも通園部を利用したいという声、もっと通園を利用して、家庭的にも、子育てにもゆとりを持って、落ち込まずに取り組めることを多くの方に期待したい、今、通園部のみなさんが持っている明るい雰囲気・楽しい子育てを、他の方にも実感してほしいと思ってのことです。子供の数に合わせてスタッフの充実、施設設備の整備を同時並行的に行うのが本来のあり方ですが、要望が強く、利用者である子供さん、親、スタッフの方々に迷惑をかけながらの新たなスタートとなりました。みんなで助け合って人数が多くなることのメリットを生かし、デメリットを最小限に押さえるよう協力していただきたいと思います。

療育の大きな流れの一つに当事者同士の知恵の出し合い、お互いがよき相談相手になり励まし合って問題に当たっていくピアカウンセリングがあります。障がい児の家族が自らの体験を生かし、他の方と悩みを共有し励まし合っていくことが大きな力になることがクローズアップされてきています。特に今回卒園される子供たちのご家族は、障がい児療育・子育てのベテランとして他の方のよき相談相手になれる十分な素質を持っていらっしゃいます。その経験と知恵を他のご家族の方にもいっぱい分け与えてください。

最近、金子みすずという童謡詩人が話題になりその詩集を手に入れました。すてきな詩がたくさんありました。是非ご自分で読んでみてください。その中でも特に印象的だったのが次の詩です。

わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう、
地面（じべた）をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう、
たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。



この詩は最後の一行に特に心惹かれます。このセンターの、あるいはこれからの日本の基本的方向を示す言葉としてピッタリじゃないかとさえ思います。

お互いの違いを認め合うこと。無理して人に合わせなくてもいいんだ、またヒトに合わせることを子供に強要しなくてもいいんだ。この考え方が浸透すれば、いじめや不登校もずいぶん少なくなるのかもしれませんが。横一列意識の強い日本人には特に必要なことじゃないかなと思います。歩けない人生があってもいいんだ、障がいを持って生きていくことも一つの人生のあり方なんだ。それが不幸だなんて誰にもいわせない。

障がい児の親となって、つらいことも多かったとは思いますが、人生の本当の喜び、ほんの小さなことにも感動できる心や感性など、子供から貰ったものも多かったと思います。障がい児とともにそれを取り巻くご家族も、豊かな人生を生きておられます。これからも自分の子供に誇りを持ち、自信を持って生きていってください。

(平成7年度 はぐくみ より)

七夕の願い事

センターに飾るので七夕の願い事を書いて下さいという事で、短冊を渡されました。次のみずゞの詩を書いて飾ってもらいました。「歩けますように」などの他の子供たちの願い事と一緒に、笹の葉の先で軽やかに揺れていました。

それにしても、きれいなものとして、お医者さんとカラスは同列か ... トホホ...

みんなをすきに

金子みずゞ

わたしはすきになりたいな 何でもかんでもみいんな

ねぎも、トマトも、おさかなも のこらずすきになりたいな

うちのおかずは、みいんな、 おかあさまがおつくりになったもの。

わたしはすきになりたいな、 だれでもかれでもみいんな

お医者さんでも、からすでも、 のこらずすきになりたいな

世界のものはみいんな、 神様がおつくりになったもの。

本物の体験を

卒園おめでとうございます。一つの節目を乗り越えられたことを心からお喜び申し上げます。新しい明日に向かってまた進み出して下さい。来るべき未来には何が待っているのでしょうか？ わくわくする気持ちですね。

未来へつながるものとして最近やたらとコンピューターだ、インターネットだ、バーチャルリアリティだと、そんな話をよく聞くようになりました。一般社会でコンピューター利用の頻度は高まるばかりで、しばらくは狂騒状態が続くかと思われまます。確かにその進歩には目を見張るものがあります。そしてその恩恵を受けることが一番期待できるのが障がい関係ではないかと熱い期待を持ってみています。歩けるか歩けないかではなく、コンピューターを使えるか使えないかが人生の分かれ目となりそうな気がします。情報化社会の中でその恩恵も計りしれず、障害があって自由に動き回るのが困難であればなおさらのことでしょう。別に焦る必要はないでしょうが、すぐ手に触れるところであれば、遊び、ゲーム、おもちゃ感覚で子供たちはコンピューターやその他のテクノイド関係の機器を使うようになって行きます。できるだけそのような場をセットしてあげるのも周りの役割になっていきます。

ただそうはいつでもやはり直接的な体験、生身の感覚は大事だ、大切にしたいと思います。いわゆる手塩にかけるといふ、直接的な肌のふれあいの中から愛情や情緒が育っていくという事はこれからも変わらないでしょう。「いろんな体験を」といっても、旅行でハワイに行くとか(それができればそれに越したことはないでしょうが)、そう大それたことではなく、手や頬をさわってあげたり、だっこしたり、あるいはちょっと犬に触らせてみたりとか、ほんの些細な体験の積み重ねです。手が前にきて視野の中に確認できる状態で手が動くことなども、何でもないことに見えますが、非常に大事な体験です。同じだけの能力を持って生まれても、日本で日本語環境で生活すれば日本語を話すようになりますし、アメリカなら英語を話します(同じアメリカでもスペイン語系の社会もあるそうですが)。能力の違いではなく、環境の違いです。訓練だ、訓練だといっていますが、要はいい運動・感覚体験をしようということです。放っておくと異常な感覚・運動の中で異常な運動パターンが形成される危険性がある。それを少しでも普通の体験をすることによって有効なパターンに近づけようとする事に他なりません。訓練室に通うことが訓練ではないということをしっかり念頭に置いておく必要があります。

仮想現実も現実の一部になり、現実と非現実との境がだんだんあやふやになっていきそうな気がする昨今ですが、やはり体全体での体験、肌のふれあいは大切にしていきたいものです。

絵八ガキの中の海でなく
神話の中の海でなく、
地球儀のうえの海でなく
遠くで思う海でなく
私の素足にじゃれつく海
私の髪からしたたる海

焦げた肩からひりひり剥がれる痛い海
やさしくて
わがままで寂しがりやで
暴君で
涙の五倍もしょっぱい海
それがわたしの海 わたしの好きな海
ごきげんよう
ことしもきました



新川和江 「青春詩編」より

素肌にじゃれつく体験を求めて、今日も子供と遊んで下さい。

(平成8年度 はぐくみ より)

お父さんの出番

卒園おめでとうございます。本当に一年はあっという間です。この一年、皆さんにとってはどんな年だったのでしょうか？ こんな事言うと年末の大晦日みたいですが、昨年からよく耳にする言葉に家庭でのしつけ・父の役割というのがあります。

あんまり思い出したくないことですが、忘れられない出来事として、神戸の事件を始めとする最近のこどもの事件・犯罪があります。怒られたから自殺した、たしなめられたから殺したなど、動機と行為の余りの落差に、生きているということの実感、命に対する畏敬の念が非常に希薄なのを感じます。生きていることがどんなに貴重なことか、食べること、歩くということがどんなに巧緻で大変な行為であるか、そのすごさ、すばらしさを全く実感できないまま、他人の命も、おそらく自分の命・身体さえも、傷つけているのだらうと思います（そんな命や身体の大切さを教えるために障がい児はこの世に遣わされたのかも知れません）。

少年の事件と共に、家庭でのしつけや父親の役割が論じられます。父親が叱らないからだとか、威厳が足りないからだとか言われますが、叱り方が足りないのではなく、たっぷりと付き合う時間が足りないのです。ナイフの使い方を教え、切ったら痛い、赤い血が出るということを実感させるチャンスが足りないのだと思います。障がい児に対しても同じです。細かい技術や知識はさておき、どっしりとたくましくおおらかに子どもに接して下さい。こういったら怒られるかも知れませんが、お母さんからあんまり細かいことを言われても気にせず（お母さんには内緒ですよ！）、子供が喜ぶならそれは良いことだと、体で子供と遊んで下さい。何せ母親は、特に通園部のお母さん方は、子供と接する時間がお父さんより圧倒的に多く、しかもセンターでいろいろと勉強し、お母さん同士でいろいろと情報交換しているのです。親父がいくら頑張ったところで、子供に関する知識・技術・情報においてとてもかないません。親父の遊ばせ方はダイナミックさに有り、子供を大空にタカイタカイしたり、飛行機ブンブンで振り回したり、多少怪我しても後が残らなければいいやという気で遊んでやって下さい。子供がまだ小さい今のうちが、父親の圧倒的存在感を示し、身体を実感させるチャンスです。父から娘に宛てたこんな詩があります。

奈々子に

吉野弘

赤い林檎の頬をして　眠っている　奈々子。
お前のお母さんの頬の赤さは　そっくり
奈々子の頬にいつてしまって
ひとところのお母さんの　つややかな頬は少し青ざめた。

お父さんにもちょっと酸っぱい思いが増えた。

唐突だが 奈々子
お父さんはお前に 多くを期待しないだろう。
ひとが ほかからの期待に応えようとして
どんなに 自分を駄目にしてしまうか
お父さんははっきり 知ってしまったから。

お父さんがお前にあげたいものは
健康と 自分を愛する心だ。

ひとが ひとでなくなるのは
自分を愛することをやめるときだ。

自分を愛することをやめるとき
ひとは 他人を愛することをやめ 世界を見失ってしまう。

自分があるとき 他人があり 世界がある。

お父さんにも お母さんにも 酸っぱい苦労が増えた。

苦労は 今は お前にあげられない。

お前にあげたいものは 香りのよい健康と
かちとるにむずかしく はぐくむにむずかしい
自分を愛する心だ。

自分を愛し、自分を肯定できる人は、障害があろうとなかろうと幸せです。たとえそれが他人のメガネ・期待にかなう形でなくとも。他人を気にしなければ、他人と比較しなければ。「みんなちがって、みんないい」と思っていれば、ねたみもなく、人はもっと自由で幸せです。

(平成9年度 はぐくみ より)

*父の日に

今日は父の日で、センターの通園保育はお父さんの参観日。障がい児のお母さんにもだが、お父さんに対しても、いまさらがんばれとは言えない。忙しい仕事の合間のつかの間の休み。子供との触れあいも、お風呂だ食事だ、訓練だと、ゆったりとした時間の持てないお父さんにかかる適当な言葉は見あたりません。それでもひとしきりスキンシップの取り方等を講義したあと、父の日のプレゼント代わりに吉野弘の「奈々子に」(前掲)を朗読しました。眠たそうに目を閉じているお父さんもあり、仕事に疲れた成人男性に詩の朗読も場違いだったかなと、ちょっと恥ずかしくなりました。

しかし、家族紹介等の時間の時、一人のお父さんが、「あの詩に目頭が熱くなり、とても目を開けていられませんでした」と話されました。てっきり夢見心地で目を閉じているお父さんと思っていたのでビックリしました。「5年前の今日、この子が生まれました。それから人生が激変しました。この子のおかげでいろんな事を勉強させてもらいました。今あるのはこの子のおかげです」と、今でこそ少し微笑みながら落ち着いて話されますが、生まれ落ちてすぐ、仮死だ痙攣だと気の休まるときも無く、お母さんのつややかな頬も青ざめ、お父さんにもどうしようもない辛い思いが重なっていった頃のことをフラッシュバックして駆けめぐったのかも知れません。あるいはこどもに多くを期待して、こどもにつらい思いばかりをさせていたのではと思われたか。

別に障がい児の親に限ったことではないけれど、みな、自分の頬の赤さを子供に移し与えながら子育てをしているんだなと、父の日に改めて思いました。子育て世代に突入した大人も含めてこどもたち世代の若者に、だから親に感謝して親に尽くせとは言わない。それが親のつとめであり、我々も親の赤い頬を分け与えてもらいながら育ちました。ただ、自分たちが親になったとき、自分のこどもにも同じような気持ちで接してほしい。親からの愛を次の世代に伝えて欲しいと思います。親に愛された実感が持てなかったとしても、虐待の世代間連鎖は強い意志を持って断ち切ってほしい。子供時代辛かったとしたら、その辛い思いをこどもに再び味合わせないことが、又自分の辛かった過去を肯定的に受けとめる道なのだから。それが自分を愛することだから。

そんな事を思った一日でした。

男のイクジ無し

育児をしない男を、父とは呼ばない。

厚生省のポスターよりー

(政府がこんな衝撃的なポスターを、よく作ったなあ、しかもモデルはダンサーのサム＝安室奈美恵のお婿さん。今ぶっちぎりの旬な話題の人)

...・ではなんと呼ぶ？ それは... イ・ク・ジ・ナ・シ

仕事あって育児なし。「育児なんて男のやることじゃない」なんて言っている男は、本当に意気地なし。難しいんだぞ、子育ては。仕事を理由に、子供と向き合うことを避けているだけじゃないか。「忙しくて育児どころじゃない」なんて言っている男の行く末は「産業廃棄物」。土に帰ることもできず、役割が終わればレベルを剥がされ、ぼいと捨てられる。有害物質を含んだり、存在自体が厄介もの。昔は働き者でバリバリ仕事をこなしていたことなんて誰も振り向いてくれない。ずいぶん言いぐさじゃないかと思うけど、言い得て妙と、うなずき感心して納得してしまう。

だけど日本の男も、父親と遊んだ記憶も余りなく、子育てや家事について教わりもせず、いきなり良い父親を強要されても戸惑うばかり。育児より仕事優先が日本の常識(だった)じゃないか。しっかり受験勉強をして、よい大学に合格し、良い会社に就職する、それが一番大切な、親や世間が期待していたことだった。それを素直に一生懸命目指して来たのに、いまさら「父」じゃないなんて非人間呼ばわり、そりゃないよ。少なくともオカミから(ついでにカミサンからも)何のインフラ整備もなくそんな事言われたくない。

ただ、接待費も削減されて残業が減った不況の今が、男が家庭に居場所を見つけるいいチャンスかもしれない。不況も、悪いことばかりじゃないよ、きっと。仕事にまい進して産業廃棄物になるよりは、きちんと家族や子どもと向き合うほうが、はるかに人間的な苦勞や幸福をもたらしてくれる事は確かだろう。ゲーテも言ってるよ、「国王であれ農民であれ、家庭に平和を見いだせるものが一番幸せである」って。図らずも障がい児の親になって、厄介な育児を必死にやりくりしている家族を見ていて、つくづくそう思う。大変だけど、感動する心を育て、豊かな人生を送っている家庭がたくさんあるよ。大丈夫、日本のお父さん、やればできるよ



ボヤキ男からお父さんへ

子供たちを美人に

ご卒園おめでとうございます。本当に一年はあっという間で、もうこの季節になりました。昨今の頃はインフルエンザが猛威をふるい、今年も又風邪が流行っています。子供が風邪をこじらせて寝込むことも多いため、健康に気を使って家族の方も浮かれてばかりはいられないかと思えます。今年の仕事始めの挨拶で、一つの今年の目標として、「子供たちを美人にしよう」というのを挙げました。別にお化粧をしようということではありません。昨年の流行語大賞に田中真紀子代議士の「凡人、変人、軍人」というのがありました。「じゃあ、あなたは何なの」と聞かれた彼女が、「あたしは美人よ」と答えたとか答えなかったとか。

美人の定義は女の数だけありというのも聞きますが、ある会社のリサーチで美人の条件を募ったところ、1.健康 2.清潔 3.笑顔 だったそうです。やはり健康が何より。障がい児も障がいがあるからといって病気ではありません。殆ど医者にかかったことがないという障がい者の方もいらっしゃいます。ただ動きが少ないとどうしても体力が付きにくいし、寝たきりでは肺活量も少なく、肺炎などにもかかりやすくなります。普通以上に健康に気をつけなければならない所以です。そして健康は家族と共に、療育センタースタッフも一番心がけるところです。

清潔については、身体が汚れていない、服装がこざっぱりしている、身だしなみがよいということかと思えます。先日、クリスマス間近の宮交シティーに買い物訓練でみんなと行きました。その時、センターの子供の車椅子などは、割とデザインも良く見た目もきれいで（つい最近ボランティアの方がしっかり磨いて下さったばかりでもありました）子供たちの服装も普通と変わらず、にこにこクリスマスの雰囲気の中にとけ込んでいました。別のグループで車椅子に乗った大人の方々がいらっしゃいました。くすんだ色のさびの目立つ車椅子で、乗っている方の服装も、趣味の問題もあるかと思えますが、地味というよりみずぼらしい感じでした。華やかな雰囲気の中で、そこだけが沈み込んだようで、他人事でなく惨めな気持ちになりました。子供たちにはこんな気持ちにはなってほしくないし、自分も車椅子に乗ることで惨めな気持ちにはなりたくない。それなりの服装で（今のうちから服装のセンスを磨いておかねば）、良いデザインの、みんなが振り返るとまではいなくても、押して手伝ってあげてもいいなと思うような素敵な車椅子に乗りたいと思います。補装具も然り。福祉として車椅子や補装具をあげているんだからこれくらいで我慢しとけという、お仕着せの施しの福祉は早く卒業したいものです。

笑顔が障がい者に求められるとき、障がい者自身が体験的に思い浮かべるのは、介助を頼むときの卑屈なほほえみのイメージで、障がい者への評判は芳しくありません。でも子供たちのほほえみを見ていると、これは神様の贈り物だなという気がします。命の輝きを見るようです。代償を求めない、心からの微笑みを子供たちの顔に見るとき、逆にこちらの心が洗われ癒されます。そんな屈託のない心からの笑いを通園部の子供たちからもいっ

ぱい頂きました。愛情深く育てられ、人を信頼し自分が生きていることを喜んでいるなど
思います。

詰まるところ、美人の一つは、香りの良い健康に包まれ生きる喜びを表現している人が
もれません。で、通園部の子供たちは親に勝るとも劣らぬ美人揃いです。これからもそ
の笑顔が絶えることなく、親子共々美人であり続けて下さい。

P S . はぐくみの原稿を書いている頃、富 夕 ちゃんの訃報が届きました。何とも残
念です。夕 ちゃん、あなたのことは忘れない。あなたの素敵な笑顔を覚えています。夕
ちゃんも天国でみんなを見守っていて下さい。

まゆとはか 金子みすゞ

かいこはまゆに はいります、
きゅうくつそうな あのまゆに。

けれどかいこは うれしかろ、
ちょうちょになって とべるのよ。

人はおはかへ はいります、
暗いさみしい あのはかへ。

そしていい子は はねがはえ、
天使になって とべるのよ。

天使になった夕 ちゃんへ 合掌
(平成10年度 はぐくみ より)

俺がおまえのバリアフリー

卒園おめでとうございます。ミレニアムの年が始まったと思ったら、もうこの季節。子供達は一日一日とたくましく成長しました。今年もそんな成長した子供達を送り出せることは私達みんなの喜びです。

新春になり、いろんな事が新たに始まりました。TVドラマも一新され印象的な予告編がありました。車椅子の女性が主人公の一人で、彼女を喫茶店に誘ったが、「あそこは段差があったりでバリアフリーになってないのよ」と断られ、相手の男が言った台詞(せりふ)が、「俺がおまえのバリアフリーになるよ」。何ともキザなクサイせりふだが、演じるキムタクの自然体がかっこいい。早速その週から見ることになりました。女に限らず、美男・いい男はトクだねとやっかみたくもなりますが、さらりとかうということが言えるのもいい男の条件かも。昔あったドラマで、人に迷惑をかけるからと車椅子で出かけるのをためらう障がい者を、「かけなきゃいけない迷惑なら、かけたっていいじゃないか」と一喝する寡黙な男をケンさんが演じていたが、この時の台詞もかっこよかった。本来的にはこんな言葉が必要ないバリアフリー社会であるべきなのだが、残念ながら時代はまだこういう台詞を必要としている。そして今一番「私がおまえのバリアフリー」を演じているのは家族、お母さん方でしょう。

物理的、制度(社会)的、心理的バリアのなかで、一番難しいのが心のバリアを無くすこと、偏見差別を無くすことだと言われています。これは口で言っても決して無くなるものではなく、幼児期からの環境・経験です。そのためにはやはり小さいときからいろんな人と接し、人間が多様性に満ちた存在であることを肌身で実感していること、幼稚園や保育所、近所でいろんな人と出会い、遊んだ経験の中で一番培われるものだと思います。肌の色が違ったり、障害があったり、車椅子に乗った子供達がそういう経験をさせてくれる人達、ボランティアです。皆さんには是非積極的にみんなの中に出て行ってほしいと願っています。自分の子供のためだけでなく、みんなの為に、バリアフリーの社会を創るために。そういう点で障がい児の兄弟姉妹が一番いいポジションにいるのかもしれない。保育やいろんな行事に兄弟姉妹もよく参加しているし、見ているとみんないい動きをしています。もっと甘えたいのを我慢している姿も見られますが、さりげなく、全く自然体で親や他児を思いやっています。親の態度が子供の価値観を決定します。両親・家族の態度を兄弟姉妹も自然に学んでおり、将来バリアフリー社会の先導者になるだろうと思わせるセンスの良さがあります。グラマーないけいけギャルが主人公のハレンチ映画がありまして、彼女がボーイフレンドを選ぶ基準はただ一つ、知的障がいを持つ自分の弟ときちんとつきあえるか否か。そういう点では極めて健全な映画でした。

お父さんがこどもをしっかりと抱きとめている姿も「俺がおまえ



俺がおまえのバリアフリー

のバリアフリー」という台詞がよく似合います。日本も早くその台詞が似合う国になってほしいですね。子供達を先頭に少しでも近づけましょう。

(平成11年度 はぐくみ より)

土

金子みすず

こつつん こつつん
ぶたれる土は
よいはたけになって
よい麦生むよ。

朝からばんまで
ふまれる土は
よいみちになって
車を通すよ。

ぶたれぬ土は
ふまれぬ土は
いらぬ土か。

いえいえそれは
名のない草の
おやどをするよ。

「ぶたれる土」や「ふまれる土」が、一所懸命に勉強に励む子やスポーツに打ち込む子に重なります。そんな既存のレールに乗らない、乗れない子でも、いらぬ子、つまらない子じゃないんだよと言ってくれているようで、彼女の作品の中でも一番好きな歌のひとつです。障がい児は確かに、よいはたけやよいみちではないかも知れません。

でもそれは、疲れた心や虐げられた魂を、ほっとなごませてくれる大切な大切な「おやど」かも知れません。

家族の絆

卒園おめでとうございます。今年もこの季節、喜ばしくもちょっと淋しい季節です。特に今回は長く通園部に通っていた子供達が多く卒園していくので、感慨もひとしおです。通園することで楽しい思い出や良いことがたくさんあったことを祈ります。

今回卒園されるみんなの中には通園中に手術を受けたこどもも何人かいます。野君もこの原稿を書いている今、未だ術後間もなくであんまり元気なく、お母さんも心配してばかりですが、それでも健気に術後の安静に耐えました。普段もそうですが、こんな時、お見舞いに来られる方々 - 御両親、兄弟姉妹におじいちゃんおばあちゃん等々 - を見ると家族の絆の深さをつくづくと感じます。障害を持った事、手術をしなければならなかったことは、決して幸せなことではないけれど、羨ましいような家族の絆です。そして今の日本で、どんどん希薄になり、得ようとしてもなかなか得られないのが、この家族の絆です。その極端な例が小児虐待です。親が自分の子供を虐待する、場合によっては死に至らしめる、何とも悲しい出来事が続いています。虐待の発生条件は 1) 子供時代に愛されていない親 2) 生活ストレス 3) 社会的孤立 4) 親の意に添わぬ子 といわれています。子供時代に十分な愛情を感じることができないままに親になった大人が、自分の親よりも良い親になりたいと念じつつも、愛情の表現の仕方が分からずこどもにただ厳しくあたったり、生活・育児上のストレス等が引き金になって、虐待に走る姿が伺えます。そしてこれは人事（ひとごと）ではなく、往々にして障がい児を持った家庭に起こりうる状況です。予期せぬ子が生まれた事による生活ストレス、社会的孤立。皆さんの家庭もその修羅場を乗り越えてこられた事でしょう。かろうじて虐待に走るのを抑えられたのは、家族に愛された記憶、家族の絆の力が大きかったのかも知れません。さらに通園の場合は、お母さんや各家庭同士の励ましあい・井戸端会議も功を奏しているようです。虐待は許せませんが、親も又被害者だった可能性が高いのです。十分な子育て支援、暖かい家族関係無しにはこどもの幸せな家庭生活はあり得ないをつくづく思います。だから、通園のお母さん方が、何の屈託も無いかのように明るく振る舞っておられる事が、何でも無いようで本当はこれはずいことなんです。残念ながらこどもを要（かなめ）にしっかりまとめることが難しかった家庭もあるし、これからもずっとこの調子でいられる（そう願いますが）保証もありません。一般の子育てでもストレスは溜まるし息抜きは必要です。わずか月一回の（それ以上にゆっくりしていただける時間がなかなかとれないのは申し訳ないですが）母子分離の時間を、お母さん方が非常に楽しみにしておられるのも十分承知しています。卒園後も家族・友人で支え合い、必要なときにはショートステイなどまたセンターをご利用下さい。あんまり頑張りすぎないこと、突っ張らないことも長続きする秘訣のようです。

卒園という締めくくりなのに、ちょっと情けない話みたいですが、これからもこどもに合わせのんびりゆっくり、てげてげといきましょう。

(平成12年度 はぐくみ より)

* 家族そろって運動会(全肢通連機関誌「風」への寄稿)

今年の通園部の運動会にもぎやかでした。現在通ってきている子は13名ほどですが、運動会となると参加者が100名近くに膨れ上がります。親・兄弟姉妹、おじいちゃんおばあちゃん等それはにぎやかで、今ではだんだん少なくなってきた親戚一同そろっての運動会風景です。通園児は殆どが重度で座位保持装置や車椅子の使用ですが、兄弟が走り回ったり、黄色い声援が飛び交ったり、笑い声のはじめます。入所している子供も、6才未満で単独長期入所になりそうな子は通園部に通っています。殆どが家庭的に深刻な問題を抱え、家族の参加はめったにありません。それでも職員に一对一で付き添われ、本人もにこにこ結構楽しんでいきます。障がい児を中心に家族の絆が深まっているところもあれば、障害が原因か結果かは別として崩壊した家庭もある。障害の有無・軽重で幸不幸が決まるわけではないというのを実感します。虐待の世代間連鎖がいわれませんが、虐待を受けた子供が必ずしも全て又虐待に走るわけではない。その大きな分かれ目が、他に愛してくれた人、愛された記憶があるか否かにあるということを知りました。それならばせめて、他人ではあるけれども、愛しているということを知りたい、その記憶、大切な存在であることを子供の心に刻み込みたいと思います。

にぎやかな運動会が続きます。唯一人歩行可能な子が前に出て模範演技。ぎこちない動きながら、要所はびしゃりと押さえて満面の笑みで準備体操を盛り上げてくれました。子供をいろんな乗り物に乗せて運んだり(親のハッスルぶりに、見てる方は落っこしはしないか、骨折はしないかとハラハラ)お父さんがお母さんを背負ったり(今年はできたけど、来年は? - お母さん、この日のために来年も太らないで!!)大いに盛り上がって家族の絆が深まった一日でした。子供に障害がなかったら、こんなにもみんな子育てに一生懸命にはならなかったかも知れない。この結束も障害のおかげかも知れない。入所児の家庭も来年はみんな一緒に参加できたらいいね。

* 右図は「未来を描きたい」と平成12年度の年報の序に載せたものですが、私は油絵を描いた事はありません。ルネ・マグリットという前衛画家の作品の首のすげ替えです。誤解された方もあるようで、この場を借りてお詫び申し上げます。m(^o^);m
彼へのオマージュという事で悪しからず...



笑顔力

ご卒園おめでとうございます。あっという間に一年過ぎました。「はぐくみの原稿お願いします」といわれると、「えっもうそんな時？」と、時の流れの速さに愕然とします。今年もかわいい子供達が巣立っていく。一年一年同じようだけど、確実に世の中は変化しています。昨年9月11日のテロとその後のアフガンの惨状に見られるように、決して望ましい変化ばかりではないけれど、障がい児を取り巻く状況も以前と比べると少しは明るくなったのかな？という気がします。もちろんそれぞれ大変なご苦労を抱えながらのことではあるけれど、遅くなったというかおおらかになったというか、障がい児が生まれたから一生終わりという感じは以前よりは少なくなったかなという気がしています。治療の難しいこどもを柳園先生が引き受けてくれたり、小児科の愛甲先生が頑張ってくれたり、超重度の子が転院していったりして、単に私が楽をしているからかも。また、通園部の明るいお母さん方を見ているから、ことさらそう思ってしまうのかも。でも、それは望ましいことだし、そうありたい、そう思える世の中であって欲しいと思います。事実、障がい児をかかえたからといって全てお先真っ暗ということではない。運動会など見ても家族そろってにぎやかにわいわい楽しそうに「あ、いいなあ」と思ってしまう。障害の有無、軽重で幸せ不幸せは決まらない、これは断言できます。障害は無いに越したことはないし、将来を考えるとどうしても暗くなってしまうのは無理からぬ事ですけど、未来を心配して今くよくよしてもしょうがない。現在を精一杯生きることです。そしてこどもがこどもであることを楽しみましょう。

何がということではないけれど、こどもってすごいなあ、素晴らしいなあと思うことが度々あります。田口ランディという人気作家の言葉に「子供には「子供力」と言うべき、おそれるべき力がある。これは「老人力」などの比ではない。子供であるということは、それだけで一つの能力としてとらえてよいような気がする」というのがありました。五木寛之の本には「人間は「生きている」ただそれだけで、値打ちがある」という言葉が見られます。素直に納得してしまいます。さらに、障がい児には「笑顔力」とでもいうべき素晴らしい微笑みがある。もちろん普通のこどもにも大人にもありますし、それはそれでとっても魅力的です。でも、言葉が話せなかったり、手足も動かず何もできない、何も分かってないように見えるこどもの示す笑顔の魅力は格別です。次の金子みすゞの童謡を目にしたとき、真っ先に思い浮かんだのはそんな子供達のほほえみでした。

わらい

金子みすゞ

それはきれいなばらいろで、
けしつぶよりかちいさくて、
こぼれて土に落ちたとき、
ぱっと花火がはじけるように、

おおきなはながひらくのよ。

もしもなみだがこぼれるように、
こんなわらいがこぼれたら、
どんなに、どんなに、きれいでしょう。

かすかで、けしつぶよりかちいさいけれど、きれいなばらいろにぱっとはじけるように咲いたほほえみの、確かな命の輝き。はかないけれども、何ものにも代え難いこどもからの贈り物。ひたすらこどもの幸せを願う親の流すなみだの数だけほほえみがこぼれるなら、いくらでも涙を流したい。親は皆そう思っているかも知れません。でも、残念ながらなみだのご褒美をホンのちょっとしか、又は、まだ頂いてない親もいます。だからなおさらのこと、みんなを元気づけてくれる笑顔は貴重なもの、有り難いものです。周りを見渡すと、逆に普通の子供達の「笑顔力」が少なくなっているようで心配です。子供達の明るい笑顔のないところに明るい未来はありません。みなさんのとびきりの笑顔で元気づけてして下さい。

(平成13年度 はぐくみ より)

いのち

ご卒園おめでとうございます。元気に逞しくなった子供達(そしてお母さん方)を送り出せることは非常にうれしく誇らしい気持ちであると共に、普段の保育や運動会・クリスマス会で、もう皆さんを見ることがなくなるのかと思うと、心にぽっかり穴があくような切ない気持ちです。特に今回みたいに何とかかわいらしい子供達、明るく美人の(実感です!)お母さん方が一度にいなくなるかと思うとちょっと胸がしめつけられます。しかし、出会いと別れ、これは当然あり得ること、人の世の常です。受け入れ納得し、又の再会を、新しい出会いを期待していくことですね。

とはいえ、そう簡単には受容できない別れもあります。昨年、私たちは大事な子供達を数名失いました。この通園部の卒園児 T 君もその一人です。全く思いがけない突然の別れで、とうてい受け入れられるものではなく、ご両親・関係者の方の悲しみは察しようもありません。あまりにも大事なものを失った、神はなぜこのような無慈悲なことをなさるのか、と天をも恨む気持ちは察するに余りあります。私も医者になって、療育関係の仕事に就いてから、逆縁という言葉を知りました。逆縁 = 親より先に子どもが亡くなること。死は避けられないものではあるが、せめて順縁であって欲しい、逆縁にはなんとしても抵抗し避けたいと思います。でも残念ながら医療は万能ではない。理不尽ではあるが、逆縁もあり得ることとして覚悟しておかなければならない。そんなことを考えながら子育てができるかという思いですが、これは通園部に通うご家族の方が多く経験してきたことでしょう。失って初めて、あるいは失う心配におののいて初めて、その大切さ・重さを知るのが、いのちです。

しかし必死に生きていこうとすることどもの姿に、人のいのちのたくましさ、自分も強くならなければと、生きる勇気をもたらしたという話もよく聞きます。いのちを意識するような経験はしたくないけれど、多くの方がそんな修羅場をくぐってきておられます。そして、そこから生まれるのは、敗北感ではなく一日一日を大切に生きる勇気です。こどもが教えてくれることは、たとえ死がそこに身近にあらうと、今を精一杯生きることです。そして、あんなひどいつらい思いをしたのに、それを乗り越えると、屈託のないこどもの笑顔が待っているという事もあります。通園中も何度か大変な思いをし、この子が笑うことがあるだろうかとみんなが懐疑的になっていた S 君。何かのうちに「笑ったよ!」と、ほんの小さなほほえみにみんなで大騒ぎをした記憶があります。先日隣の学校での授業中を覗いてみたら、げらげら笑っていて、「うるさい!」と先生から注意されていました。あまりの落差に思わず爆笑して涙が出てしまいました。変われば変わるものだと実感しました。

未来を心配してくよくよしても仕方ありません。通園部のみんなが示してくれたように、一日一日を元気にたくましく生きていくことが一番大事です。明日のために今日を犠牲にすることなく、今日が一番いい日といえるように。卒園という節目の時に、一つ一つの節目を大切に、一つ一つを乗り越えていくことを大事にしていきましょう。卒園も、その先にある入学式も、人生の大事な節目です。私たち医療・療育スタッフも、親と共に、こどもの健康

のため精一杯の努力をしていきます。その節目に、いのちの有り難さ・人生の積み重なりを感謝・実感できれば幸いです。思いがけない命のたくましさ、輝きを昔の人はこんな風にも詠んでいました。

斧入れて 香(か)に驚くや 冬木立

与謝蕪村

枯れて朽ちはてていると思っていた木に斧を入れたら、思いがけず漂ってきた木の香り。この香りは命の香り、いのちの証しです。こどもたちのいのちの香りに驚きながら子育てできればいいですね。こどもたちはそんな香りを発しているのに、私たちが気づいていないだけかも知れません。もちろん大人や老人も！ 寝たきりのお年寄りだって枯れてなんかいない。豊かな感性を持って生きている・感じていると、介助し肌を接してみたらためて実感することもあります。

(平成14年度 はぐくみ より)

コミュニケーション

ご卒園おめでとうございます。卒業、卒園は、非常にうれしく誇らしい事であると共に、お別れでもあり、やはり何となく切ない気持ちになります。とはいっても、これは成長の一過程、そして新しい旅立ちです。胸を張って皆さんをお送りしたいと思います。ただ、最近園児が少なくなったこともあり、やはり例年以上に寂しさは否めません。それに私自身、クリスマスや運動会などの行事に参加することも少なくなって、ちょっと親しくお付き合い、コミュニケーションをとる機会が減ってきているのが気がかりです。

この一年を振り返ってみると、最近になくコミュニケーションの大切さを実感した一年でもありました。年の初めには身障手帳1級の重度障がい者である吉村さんというプログラマーの方に来て頂き講演会を開きました。脳性麻痺で言語障害も強いため、講演は予め入力した文をパソコンの合成音声を使って読み上げるという形で行なわれました。テーマもそのものズバリ、「コミュニケーション」！（-障がい者こそ最先端技術を-）自らの必要性に迫られて、障害があっても利用しやすいワープロソフトを独自に開発し、全国の障がい者の方にコミュニケーションツールとして無償で提供している彼とその仲間の活動が紹介されました。本人は喋れない、歩けない、字も書けないという状態で、そんな風だと人間的・能力的にも低く見られがちですが、そんな価値観を見事にひっくり返してくれました。今まで表現手段を持たなかった重度の障がい者の方がパソコンに出会い、堰を切ったように自分の気持ちを吐露し豊かな感情世界を表現しています。周囲を見渡しても、最近コミュニケーションツールとしてパソコンが身近なところで大きな役割を果たしてきています。訓練場面でもパソコン、TVゲームの出番が多くなりました。隣の清武養護学校でも、その吉村さんのプログラムを使って子供達が詩を書いたり、学習発表会でも立派な表現者となっています。障害のある方に、社会生活を送る上での重要事項をお聞きしたところ、1.コミュニケーション能力、2.ADL 遂行能力、3.社会生活での移動能力、4.歩行能力 だったそうです。歩けるか否かよりも何よりも、自分の気持ちをうまく伝えたり、人とコミュニケーションしていく能力が、社会生活上は何よりも大切ということです。

考えてみれば極めて当たり前のことで、私たち健常者といわれているものにとってもそのまま当てはまります。人間と関係するトラブルの極めて大きな部分がこのコミュニケーション問題に関係しています。大きくは戦争、身近なところでは、ちょっとしたいざこざやわだかまりなど。昨年末、小児科医が不在になるかもしれないということがひとつの発端となって広がった利用者の不満の声も、かなりの部分がコミュニケーション不良によるものでした。必要な情報が必要なところに適格に提供されず、誤解が誤解を生んで不信感が増すという事態で、通園部の皆様も含め、利用者の方には不安で不愉快な思いをさせていただきました。いくら思っている、きちんとそれを表現しないと相手には伝わらない。まるで恋愛を論じているようですが、仕事の上でも同じ事なんだと痛感させられた一年でした。きちんとしていればそのうち分かってもらえるさと、どっしりかまえておくのもいいでしょうが、一度信

頼関係が崩れると修復には時間がかかります。できれば誤解が生じないようにしたいものです。直ぐ返事を返すこだまのように、早めにお返事したいと思います（ただ、「ばか」といわれども「ばか」とは返しませんからご安心を）。

こだまでしょうか

金子みすゞ

「遊ぼう」というと

「遊ぼう」という

「ばか」というと

「ばか」という

「もう遊ばない」というと

「遊ばない」という

そうして、あとで

さみしくなって、

「ごめんね」というと

「ごめんね」という

こだまでしょうか、

いいえ、だれでも

スタッフも、子供達・ご両親方と、積極的にコミュニケーションしていきたいと思います。素敵なこだまが返ってくる事を期待して。どうぞ皆さんも卒園後でも気軽に立ち寄って声をかけて下さい。

素敵なこどもとご家族に

やっほー！！ 卒園おめでとう！

(平成15年度 はぐくみ より)

水

今年の春は卒園児がいない分、別れの切なさもなくほっともするけれど、それも又ちょっと淋しいねという複雑な心境です。こどもたちはそんな事に頓着なく元気で、この冬日本を騒がせた嘔吐下痢症などにかかる事もなく、無事に今年の冬を越していけそうです。ただ、これにしてもありふれた病気で、そんなに怖いものでも、今年が特に流行が激しかったわけでもない。それなのに、マスコミは大騒ぎでした。こちらもつい身構えてインフルエンザ注意報に続いて嘔吐下痢症関係のチラシを配ったり、感染対策を再確認したりあたふたする事になりました。

その中でつくづく思ったのは、病気にかからない事も重要だけど、全ての病気から逃れるのは至難の業で、なおかつそれでは免疫系も鍛えられません。かかっても重病にならない事、大事に至らない身体を準備する事がポイントです。そのためには何はなくとも水。脱水を起こさないということです。健康は、エネルギーのもとになる栄養や水と酸素がきちんと身体に取り込まれ、血液に乗ってしっかりと身体の隅々まで循環し、細胞の一つ一つを潤してエネルギーが産生され、老廃物がまたスムーズに排泄される事。単純化すればこの過程がうまくいく事が健康で、水は健康・命の源です。3月も半ばになれば、宮崎はもう水温（ぬる）む季節、ほんのりと湿った暖かい風が頬を過ぎてゆきます。

くれなゐの 二尺のびたる 薔薇の芽の 針やはらかに 春雨の降る

（正岡子規）

昔教科書で覚えたこんな句も思い出されます。霧のような春雨にしっかりと濡れた大気。その中でくれない色に息づく生まれたての薔薇の芽 つやつやとした柔らかな葉っぱに触れると、薄いピロードのような感触。外敵から身を守る鎧（よろい）としての針さえも、指で押しただけで殆ど抵抗もなく簡単に撓（しな）ってしまう柔らかさ。はかなげで弱々しいけれど、瑞々（みずみず）しく輝く生まれたての命のいとおしさ。そんな感動が伝わってきます。こどもの肌に触れるときもこんな感じかな？ 昨日よりほんのちょっぴり伸びたみたいな子供の背丈 その肌はつやつやとして輝いています。しかしまだ自分で自分を守るには幼すぎて、身を守る術（すべ）さえもなく、無防備にこの世界にさらされている。いましばらく、親の庇護のもとにたくましく育ておいで、私たちがしっかり守ってあげる、その棘が自分の身を守るに足る程固くなるまで --- 将来悩みの種になる事や親に反抗するであろう事も顧（かえり）みず、ついそんな約束をしてしまいそうです。そんな子供の肌はすべすべとして弾力にあふれ、乾燥ぎみな大人の肌とは大違い。それもそのはず、赤ちゃんの身体の80%は水（大人でも体重の60%は水分です。だからといって水分を控えるダイエットは百害あって一利無し、有害無益ですヨ！）。年少児である程水分たっぷりの生き物です。だから、脱水はこどもにとっては大人以上に大敵。ぷりんぷりんとした肌で、おしっこも一杯出るように、こまめにちょちょこ、たっぷり水分補給を心がけましょう。多少熱があっても、水分補給ができていて元気で食欲があれば大丈夫です。

センターの季節は春に向けて早足です。もうすぐセンターは萌え出づる若草・若葉に囲まれます。北国がまだ深い雪の中の頃、宮崎は春満開です。新しい季節の風が吹いたら、またいっぱいお散歩をしましょう。生まれたてのうす緑色のそよ風に頬を吹かれてネ お母さん方の頬もまだまだ充分瑞々（みずみず）しいですよ！

(平成16年度 はぐくみ より)

全国肢体不自由児施設長事務長会議で山梨に行ったとき、その駅の掲示板上に

不二一つ 埋（うず）み残して 若葉かな

という蕪村の句が載せてありました。晴れていたならその駅舎から雄大な富士山が見えるのでしょう。あいにくの曇り空で富士は見えませんでした。足許から目眩くような若葉が遠く富士の裾野まで連なり、その視線の先に悠然とまだ真っ白い雪を頂いた富士の山頂が輝いている—そんな光景が想像されました。さすが蕪村は絵師でもあり、文字でも絵を描くのが巧みです。

新緑の頃、どこにも雪など見えない宮崎。

「何一つ 埋み残さず 若葉かな」？

しかし、これでは唯の緑一色の景色。絵にならない。あらためて蕪村に敬服

エンタテイナー

山 君、卒園おめでとう！ もう卒園ですか...月並みですが、早いものですね。君は不思議な子です。しゃべれないのに字が読める。医学的に見てそんな尖足にならないはずなのに、わざわざ尖足で、ちょっと不安定に歩く。そして自分で意識しているわけではないけれど、人を感動させる役者、エンタテイナーです。いつもニコニコして愛嬌を振りまき、これは他のお子さんもそうですけど、そこにいるだけでみんなを楽しませてくれます。

大人はそうはいきません。通園保育のエンタテイメントとして時々劇があり、私も鶏やタコ、オオカミなどやらせて頂きました。タコをやったときは、本人はタコのグニャグニャ感を出そうと迫真の演技のつもりだったのですが、「センセイ、お酒飲んでたんですか？」とお母さんが後で心配そうに寄ってきました。日頃の酔っぱらいの地が出てしまったようです。昨年夏の重度児キャンプの懇親会では、ゴキブリの役でした。ゴキブリホイホイに捕まってもだえる様子が、日頃の生活感がにじみ出ていて、はまり役だと評価頂きました。エンタテイナーにはほど遠いですが地でやれそうなのはまだしも、似ても似つかないような二枚目役などは最初からムリ。医者になって習ったことの一つは、コンパでの宴会芸。医者は、医者であるだけではダメだ、学者であり、易者、役者、芸者であらねばならないと教えられ、酒の席で芸者、役者として鍛えられました。今やったら確実にセクハラで訴えられるようなものばかり。こども相手に見せられるモノではありません。せいぜい自信持ってやれそうなのは、木や石の役。泰然として動かず、悟りの境地を表す...って、単にジッとしているだけです。大人がやったらそこにいることさえ無視されそう。

でも、それでも存在感を示すのが子ども。特に障がい児の圧倒的な存在感にはかないません。ちょっとした表情、仕草がハラハラどきどきワクワクの対象です。お父さんお母さんは言うに及ばず、その子を見守るみんなが、成長を示すものは言うに及ばず、ウンチの色やかたちにさえ一喜一憂します。人をワクワクどきどき感動させるものがエンタテイメントなら、障がい児はみんな立派なエンタテイナーです、あの伝説のエンタテイナー、チャップリンのように。昔、障がい児の療育についてこんなことを書いた事があります。

「チャップリンはパンを焼いたか？」

- 生産性の論理からのサヨナラを -

野の花がどのように育つか、注意してみなさい。

働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。

栄華を極めたソロモンでさえ、

この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の花でさえ、

神はこのように装ってくださる。

ましてあなたがたにはなおさらのことではないか

だから、明日のことまで思い悩むな。

明日のことは明日自らが思い悩む。

その日の苦勞は、その日だけで十分である。

新約聖書 マタイによる福音書から

チャップリンはパンを焼いたか？ 米を作ったか？ 否、否。彼は人に涙と微笑みと生きる勇気を与え、人生のちょっぴり塩っぱい味と優しさを教えてくれた。ならば、障がい児も同じではないか」

今読むとちょっと気恥ずかしいですが、こどもは、ましてや障がい児は、人に涙と微笑みと優しさを、そして生きる勇気と希望を与えてくれる、とっても素敵なエンタテイナーです。私たちの感性がさび付きそうになるとき、その心のさびを落とし磨きをかけてくれるサンドペーパーです。そんな感性を光らせてくれるこどもに乾杯！ 君、卒園おめでとう、そして他のみんなの成長にもありがとう！

(平成17年度 はぐくみ より)

思い出になって、風になって

麗ちゃん、奈ちゃん卒園おめでとうございます。元気にこの年を迎えることができ本当におめでとう。2人ともいくつもの命の瀬戸際をくぐって来て、逞しく成長して来ました。お父さんやお母さんに色々心配もかけたけど、それに勝る喜びも与えてくれました。それは私達に対しても同様です。いつも皆さんに出会うとき、命のたくましさ、切なさ、儚さ、いとおしさを味あわせていただいています。全く健康で何にも心配する必要がなかったら、命の大切さを考える事も、何でも無いような事に感動する事も、こんなには無かったろうといつも思います。良きにつけ悪しきにつけ感動の源です。

そして今回、それを痛烈に実感せざるを得ない事態がありました。本来ここに一緒にいて一緒に卒園するはずだった久井桜ちゃんです。確かに障害は重度で、決して手放しで大丈夫と言える状態ではなかったけれど、誰も予想しなかった愕然とする出来事でした。昨年の「はぐくみ」にお母さんが書いていた文の一節、「学校まであと一年、最後の保育の年はどうのように過ごせるか楽しみです」に胸が締め付けられます。桜ちゃんはその一年を待たずに人生さえも卒業してしまいました。全く思いがけない出来事ただけに、ご家族の驚きと悲しみもひとしおです。私達スタッフにしても、ショートステイでお預かりしているときただけになおさら、残念で無念な、やるせない出来事でした。ここに、あらためてご冥福をお祈り申し上げます。

何故こんな事にと、悶々とする毎日でしたが、そのころから今年にかけて話題になっていた「千の風になって」という歌が目にとまりました。不思議な歌です。亡くなったひとが生きている人を励ましています。「私」はお墓にはいない、風になってあなたを見守っている、「私」はあなたと共にある、と歌っています。「私」は死んでなんかないよと。

人は二度死ぬといわれます。一度は肉体的な死。二度目は「私」を知っている人がいなくなるとき。思い出してもらえぬ事さえ無くなったとき、人は本当にこの世からいなくなるのです。だから生き残った私たちのすることは、二度目の死を迎えさせないこと。私たちが健康で、心に余裕を持ち、いつでも思い出し話題にしてあげることが出来る状態にある事です。残されたものは健康で幸せでなければなりません。昔からのいろんな法会も故人を偲び依然として私たちと共にあること、繋がっている事を確認するためなのかもしれません。アルバムを見るのも、話題にして語り合うのも、「亡くなった方」が今も私たちの心の中に「生きている」ことを確認する営みです。眠ってなんかないません、死んでなんかないません。私達が生きて思い出している限り。

だから、桜ちゃんにも、卒園おめでとう！！ 薫りの良い微風が若葉を揺らすとき、爽やかな大空に五月の風が鯉のぼりと遊ぶとき、私たちは見守られているんだね。心地よい風に吹かれるとき、みんなと一緒に遊んでいるんだよね。奈ちゃん、里ちゃんも、みんなも、一緒に思い出を語れるほど幸せだよ。

千の風

作者不詳（直訳）

私のお墓の前に佇（たたず）んで涙を流さないで
そこに私はいません 眠ってなんかいません
私は吹きわたる千の風
私はまぶしくきらめく雪のダイヤモンド
秋は穀物に豊かな実りをもたらす日の光
私はしっとりとふりかかる秋の雨
私は夜空に優しく光る星

あなたが静かな朝に目覚めるとき、
私はさえずる小鳥となって
あなたの周りを飛び回る

私のお墓の前に佇んで 涙を流さないで
そこに私はいません 死んでなんかいません

（平成18年度 はぐくみ より）

* 原詩では「風」は一回しか出てきません。でも今広く行き渡っている新井氏の訳では何回(6回)も出てきます。それがこの詩のイメージを高め、日本で広く歌われるようになった一つの要因といわれています。

時よ止まれ、君は美しい

河 君、 君、ご卒園おめでとうございます。無事卒園できるということが並大抵の苦勞ではなかったことを思うと、うれしさもひとしおの卒園ですね。ここまで来れたことを心から喜びたいと思います。ご家族の晴れがましい、あるいはほっとした表情が浮かびます。家族参観日にご家族毎の写真を撮らせていただきましたが、その時の、なごやかなとってもいい表情が思い出されます。やはり家族っていいなあ、写真は撮っておくべきものだなあと改めて思ったときでした。

通園部でのいろんな行事の時の写真や卒園写真を含め、このセンターを巣立っていった多くの子供たちの写真があります。どれも貴重な、その時その時のベストショットです。中にはもう会えない子供たち、慎ましやかな笑顔と思い出だけを残して去っていった子供たちも何人かいます。そんな子供たちの写真もかけがえのないものですが、成長していく一人ひとりの子供たちの人生の節目、その時その時の一瞬の輝きをとどめた写真も又貴重な宝物です。

新しくセンターに赴任した若いドクターに、入所している子供たちの特徴をよく表している写真を撮ってくるように指示したことがあります。趣旨としては、百聞は一見に如かずで、カルテにどんなに言葉で詳細に記載しても、一枚の写真の持つ情報量に遙かに及ばないことがしばしばです。だから子供たちの身体の変形や緊張性反射に基づく特徴的な肢位などの学術(！)写真を、私としては期待していたわけですが、その若いドクターの撮ってきた写真は全然違っていました。彼の撮ってきた写真は子供たちの顔のクローズアップ、子供たちの様々な表情でした。笑顔いっぱいの子供、ちょっとはにかんだ照れくさそうな顔、不思議そうにカメラを見つめる子供、ちょっとおすまし顔のお嬢さん顔、びっくりして振り向いた一瞬の表情。どれも豊かな表情で、子供たちが「障がい児」である前に、どこにでもいる普通の、そして輝く個性を持ったかけがえのない子供たちなんだということを雄弁に物語っていました。私は子供たちを障害児としてみることに慣れてしまっていて、こどもではなく障害を撮ることに励んでいた事を思い知らされました。若い彼はそんなこと余り考えずに、普通に子供と接したから、こんな素晴らしい写真が撮れたんだなあ、写真は撮る人の思い、人間性も写すんだということを改めて思い知らされました(だからといって「障害」を撮る事を止めたわけではありませんが。やはりそれはそれで必要なので...))

一瞬の輝きを永遠にとどめた素晴らしい写真をみると、ファウストの中に出てくる「時よ止まれ、君は美しい」というセリフが思い出されます。通り過ぎようとするつかの間の笑顔を永遠の時に刻みこんだ写真。これから子供たちはどんな表情、笑顔を見せてくれるんだろう？ 遠い未来の君たちに会いたいね。その時も輝く笑顔を見せてくれるかな？ 昔の面影そのままに、保育場面で見せてくれたような優しい目をしているかな？ 今年の卒業写真はどんな笑顔だろう？

卒業写真

荒井由美

悲しいことがあると 開く皮の表紙
卒業写真のあの人は やさしい目をしてる

町でみかけたとき 何も言えなかった
卒業写真の面影が そのままだったから

人ごみに流されて 変わってゆく私を
あなたはときどき 遠くでしかって

話しかけるように ゆれる柳の下を
通った道さえ今はもう 電車から見るだけ

あの頃の生き方を あなたは忘れないで
あなたは私の 青春そのもの

人ごみに流されて 変わってゆく私を
あなたはときどき 遠くでしかって
あなたは私の 青春そのもの

(平成19年度 はぐくみ より)

蛇足（みやざき地域療育ネットワーク研究会
お知らせメールのあとがきー蛇足ーより 順不同）

1．本日のお題：午（うま）年

今年の干支は馬。人間に一番親しい動物の一つ。本当の動物以外に馬のつくものがないかなと考えたら、ありました。脳の中の海馬、宇宙の中の馬頭星雲（別名 暗黒星雲）もその一つ。さすがに海馬は絵になりにくい。今年が希望に満ちた一年でありますようにとの願いを込めて、馬頭星雲を年賀状にしてみました。壮大な宇宙に夢を乗せて、走れ駿馬よ！

BGMは、勿論スターウオーズのテーマ 気分はスカイウォーカー(天翔る者)！！



* 宇宙の闇を疾駆する駿馬の原画はこちらで(モニター画面を明るくすると胴体部分がよく見える。 お試しあれ！)

http://www.noao.edu/image_gallery/html/im0661.html

2 . 本日のお題 : 牡丹

庭に牡丹が咲きました。
静かな春の昼下がりに
小さな庭の片隅に、
木漏れ日を浴びて
ひっそりと咲いていました。
自分の美しさに気づきもせずに、
ひそやかに佇む乙女の風情。
花弁も柔らかに日があたり、
花びらの間から花の妖精もためらいがちに顔を出しそう。
微風の吹く薄曇りの中に、そっと牡丹が咲きました



今年のこの花は、まさに 「世界にひとつだけの花」 です

牡丹花は 咲き定まりて 静かなり
花の占めたる 位置のたしかさ 木下利玄

一輪の 牡丹かがやく 病間かな 正岡子規

芸術家の目に映る牡丹は、凜として咲く、静かな存在感に満ちた花。輝くようなたくましい生命力を宿して、病人を圧倒するまぶしい存在です。

散った後の風景も絵になる。

牡丹散って 打ちかさなりぬ 二三片 蕪村

透き通るうす紅色の浴衣をはらりと脱ぎ落とし、なめらかな肌を湯に浸していた美女はいずこにと、あらぬ情景をも想像させる蕪村マジック。

... それを妄想というノダ ~(^.^) \(-.-; バキッ

春の一日、牡丹を肴にためつすがめつ、安上がりに楽しんでいます。

U_(^.^)~ お~い、酒もってこ~い

イラクには申し訳ないけど、いいな~、日本は.....

3 . 本日のお題 - - 山頭火 - -

--何の主張もない,本当の ヒマ・ゴクツブシ です m(_ _)m --

一雨ごとに緑が増して、なんていう生易しい季節を過ぎて、宮崎はどこを見ても鬱蒼たる緑。ちょっと目線を挙げれば,ストップモーションのかかった襲いかかる緑の火砕流

分け入っても分け入っても青い山

という 日向路を旅したときの種田山頭火の句も爽やかすぎるほど。しかし、これは、もがいてももがいても抜け出せぬ人の業(ごう) 性(さが)をも暗示している そうな(とてもそこまで読めない...)。そんな山頭火に初めて出会ったのは予備校の図書室。ある大学の過去問(過去の入試問題)に、この句や彼の人生の一コマが載っており、しばし試験を忘れて読み惚れていました。

次の出会いも衝撃的。何と、ナンセンスはちゃめちゃギャグマンガの「がきデカ」の最終回の最後のページが、山頭火の うしろすがたのしぐれていくか という句で、こまわり君が去っていく絵でした。なんで?? この支離滅裂でむちゃくちゃなド助平マンガ(で、なおかつめちゃ面白かったのですが)を、現代の不条理な病的社会の表現と解すれば考えられなくもないが、前頭葉の欠如したような、人の業(ごう) 性(さが)とは全く無関係のようなこまわりくんに、なんで山頭火?? 学生時代最大の謎のひとつでした。

おまえの悩みもその程度か、他に考えること無かったのかい!?

ウー (。) - 死刑!!

ある時、医局の熱血先生が武者小路実篤の言葉の書いてある壁飾りを、旅行のおみやげに買ってきました。

この道より

我を生かす

道なし

この道を

歩む

という有名な詩が載っていましたが、この後に

返歌 まっすぐな道でさみしい 山頭火

とチョークで書き加えたのはホンの出来心。熱血に水を差し、今だに告白、お詫びできずにおります。

スママセン m(@ @;)m m(_ _)m m(@ @;)m m(_ _)m

でも、やっぱり 人生 long and winding road なんだよな~

あ、まだ反省が足りない m(@ @; \(-.-; バキッ

4 . 本日のお題 : 仏様にお墓

(お盆は過ぎましたが、お墓参りが未だならお早めに) (m) 南無....

其の一 色即是空

最近ある本(「究極の免疫力」- 免疫力のカギをにぎるのはミトコンドリアだ -)
を読んでいたら、人間のエネルギーの95%はミトコンドリアが産生、色即是空の
色は物質、空は気=エネルギー であると。ということは色即是空とは、物質はず
なわちエネルギーであるということになります。ま、確かに栄養分と酸素からミト
コンドリアの中でエネルギーが生産されていく、物質がエネルギーになる不思議。
デ、色即是空 空即是色 を数式で表すと、色は即ち空にして 空(エネル
ギー E)は即ち色(物質 m)であるということで、 $E = m(C^2)$!!
すご~~い 仏様は アインシュタインじゃったか!? いえいえ、アインシュ
タインが既に仏様で.....

(^^;) \(-.-; バキッ それを言いたかったのかい!

*色即是空は、仏教の般若心経に出てくる言葉で、一般的には、この世にあるすべ
てのもの=色 は、因と縁によって存在しているだけで、固有の本質をもっていない
=空 であるという、仏教の基本的な教義との事だそうで.....

私という存在=「色」は、本質をもっていない「空」であるといわれると、もう即、納
得してしまいそう (ハイ、私は空っぽです、何ら本質的なモンは持っとりまへん)
ハハ~ッ 恐れ入りました (...でも、そんなにはっきり言わなくたって....)

合掌 (m) (-m-) (_m_)

其の二 墓標ウォッチング

数年前に同世代の親友が亡くなり、それ以来、妙に墓場が親しいものになりました。
最近時々、散歩のついでに墓場を廻って墓標ウォッチングをしています。人生
の縮図が、墓標とそれに刻まれた名前、命日・死亡時年齢に凝縮している.....

昭和初期に1 - 2歳でよく亡くなっているのは、当時の衛生・経済・社会状況の
反映、昭和10, 20年代の若者の死は戦争の影響だろう。大三元の麻雀パイが
描かれている墓石は、麻雀好きの父親か。ギャンブル好きの豪快な性格で愛されて
いたのだろう。しかし45歳は若すぎる。

墓標にサッカーボールが刻んであったのは、17歳の少年のもの。ボールの横に「思
い出をありがとう」の文字。慟哭してもなお収まらぬ無念の思い、納得できぬ別れ
にあがく心への鎮魂歌(レクイエム)か。

ラグビーボールの墓標は、24歳の若者。写真も飾ってあったが亡くなるどの位
前のものなのだろう、ボールを抱えて走る姿の太股(ふともも)のなんとたくまし
いことか!!

シンデレラの馬車で飾ってあった墓は20歳の女性のもの。娘の花嫁姿を楽しみにしていたであろう親の想いが哀しい。叶わぬ想いは永遠に封印された。

36歳の男性（お父さんだろう）と4歳のこどもの命日が同じ。交通事故か？しかし、その数ヶ月前に母親とおぼしき34歳の女性が亡くなっている。どういう出来事、人生があったのだろう。

若すぎて、半年、一年前には考えもしなかった人生の終わり。直前まで、予想だにできなかった愛する人の突然の死に、残された人はどう対応できたのだろう。他人の墓ではあるが、思わず合掌。特に若者の墓標を見ると、子を持つ親の一人としては何とも身につまされて切ない。

意外に最近の人で40, 50代でなくなっている事が多いのにもびっくり。平均寿命ものびていて、長生きは当然のようにも思っていたが、天寿を全うするのは僥倖か。長命を切望するわけではないが、60代を生きれば良しとしよう。あら、あんまり時間がない.....

当たり前だが、墓場には命の切なさ、哀しさ、いとおしさ、無念な想いが渦巻いている。しかし、核家族化の上、亡くなるのは病院で、お葬式は斎場でとなって家庭からは切り離され、死はよそ事になってしまった。最近の子どもは、身近な人、愛する人が亡くなるということがどんなにつらいことか体感する機会が極端に少なくなった。そして、命に終わりがあること、命の大切さを実感する機会がないまま、ゲームに興じ、リセットすれば登場人物が生き返るのを体験している。あまりケンカもしないから、やられる痛みや手加減もわからない。それが思いやりのなさや乱暴、無気力、犯罪にもつながるような..... 痛みや、別れ、哀しみなんかのネガティブな体験も、やっぱ人生、こどもにも必要なんだよなあ
...んにしても、人生楽しむのも生きているうち！

死んで花実の咲くものか 咲かしてみようかホトトギス！

諸行無常
色即是空
焼肉定食
盛者必衰

縦に読むとお経みたい

ショーシキショウセイ ギョウソクニクシャー ムーゼージョーヒツ ジョークー
ショクスイ

まさか焼肉定食が入っているとは誰も思うまい(^;)

何で焼肉定食かって？

ぽっと出てきた四字熟語、定食の定番、「肉食」の解答

* 同じ病状、同じ事故でも、生への執着のある方が生き延びるそうです。免疫力の差が表れるそう。あまり無常観にとりつかれて、人生これで終わりも良いかなんて考えていると、治る病気も治らないそうです。ストレスを上手にコントロールし、楽しい気持ちを持続して病気には抗(あらが)い、じたばたしつく生に執着しましょう！ 妙に悟ってはいけません。

ビールに枝豆、スイカにウナギ！ 世の中、まだまだ捨てたものではありませんゾ！！

..... ていうか、生への執着とって、浮かんでくるのがこんなもの？！

(おまけにスイカにウナギなんて思いっきり食べ合わせが悪そう.....)

なんか、淋しい..... (´。`)y-~~~~...フッ

5 . 本日のお題：夢しずく

定例会のアピールコーナーで、志布志で歯科医院を開業しておられる西国領先生が、焼酎 夢しずくをわざわざ持ってきて紹介くださいました。志布志の障がい者の方々が丹誠込めて作られた本格焼酎です。 製造元：若潮酒造協業組合 鹿児島県志布志町安楽215

電話：099-472-1185 一本(1.8L)2000円

早速頂きました。味も最高です！！ 名前にも惚れました。で、ほろ酔い気分でコマーシャルソングを作ってみました... 夢しずく効果 (^_^)v

夢しずく

あなたのほほえみに わたしもほほえむ あなたの寝息に わたしもまどろむ
南の風と大地に いだかれて 夢と現世(うつつ)の ひとときを

あなたの夢のひとしずく わたしの夢のひとしずく
集めて皆で飲みほせば
人それぞれに違ってて ああ、人間っていいもんだね

あなたのやすらぎに わたしもやすらぐ あなたの手を取り わたしもぬくもる
南の空と海とに とけこんで 現在(いま)と未来の ひとときを

あなたの夢のひとしずく わたしの夢のひとしずく
集めて皆で語らえば
人それぞれに違ってて ああ、人間っていいもんだね

ほろ酔い気分のうっとり気分、ついでに TV コマーシャル用映像を考えてみました
(...酔うと次々に夢が広がる焼酎です ...夢しずく効果... (*^_^;)v

バックには先ほどの歌が流れ、場所は古い民家の風通しの良い縁側。時々軒下に
風鈴の涼しげな音。背景には青い空と志布志の海が広がる。まだ夕焼けには早
い静かな夏の昼下がりに

登場人物は一仕事終了のお風呂上がりの父ちゃんとかども
夢しずく片手のお父ちゃんが縁側に腰を下ろし、幼子を膝に抱いてあやしている情
景(オイオイ、落っことすなよ w(*^_^;)w)

宙を泳いでいたこどもの手が偶然お酒のコップに触れる。真剣な顔でお父ちゃん
が一言「ダメ、お酒は二十歳過ぎてから！」

愛するものを抱いて抱かれて、夢とうつつをさまよう至福のひとつとき...の感じが
かな? 登場人物は抱き合ってまどろむ恋人達でもいいのだけれど、唄の最初のコン
セプトでは、「あなた」は幼子(おさなご)です。酔ってくるとだんだん妖しくなっ
て、愛し合ってまどろむ恋人達みたいになりましたが

(*_-*)(*^_^*)v ... 夢しずく効果... (*^_^;)v

愛し合っている最中に、「人それぞれに違っていいもんだね」なんて言ったら、「こ
の浮気者!!」と、千手観音の往復ビンタが返ってきそう

(*T.T*) \(-_-x) / びしっ ぱしっ X1000 ...夢しずく効果... (*^_^;)v

ということで基本的には、これはほろ酔い父ちゃんのうたう子守唄、ララバイです。
こどもたちの個性豊かな成長を喜ぶ唄なのです。

...オイオイ、解説シナケレバワカラナイ唄ナノカ...

ライバルは浪曲子守唄! 打倒 逃げた女房への未練節!!

(*^o^*)/ お~!! ...と、ヨッパライの戯れ言

飲もう!! U__(*^o^*)/ カンパ~イ

6.本日のお題: オヤジシリーズ其の1 不眠 羊が一匹...

ご用とお急ぎの方、及び眠たい方は無視の程を <(_ _)>

久しぶりに熱出して寝込みました。血液検査したら CRP=20.7 の新記録!!

土曜日に日直当直の予定が、病人に無理をされて、あまつさえ、菌でもばらまかれ
ては困ると交代、自宅謹慎となりました。おかげでボケ~っとすることなしに昼間
から寝たり起きたり、TVに読書、パソコンでぶらぶらしているから夜に熟睡できな
い。夜中コソコソ起きだして、できるだけ眠たくなるような退屈な本を探して読む
ことにしました。

不眠対策に選んだのが、積ん読していた大江健三郎氏の「あいまいな日本の私」

申し訳ありません、大江様！ <(_ _)>

ノーベル賞受賞記念講演は期待に違(たが)わず、めちゃ退屈！

受賞が決まってから講演直前まで、推敲に推敲を重ねた、渾身の一作でしょうけど、読んでいるほうが「あいまいな脳みその私」です。

ホケ~(´。`) \(-_-; 起きろッ

やはり、それなりの知識・教養が無いと面白味が分からない、難しいです。

しかしというか、さらに他の章を読んでいたら興味がわいて、それなりに面白い。彼の子供の大江光氏が障がい者で作曲家なのは有名ですが、それに関する一節。

「光の音楽を聴いて、私や妻が感じますことは、まず医師達の援助に寄って、光を癒すことに努めてきた、そして癒すことができた、ということです。同時に、そのこと自体によって私たちが癒されてきた。むしろ光という子供が恢復してゆく過程に立ち会うことによって自分たちも癒されてきたということです。その経験をつうじて、人間が病気から恢復するという自体に、まわりの人間を励ます力があるということ、教えられてきたように思います。しかもそれは気がついてみれば、ドフトエフスキーから志賀直哉まで、多くの文学者が書いていることでもあるのです。」(国際医療フォーラム講演より)

確かに子ども、特に障がい児は周りを癒してくれる力がありますよね。困ることもあるけど、ダウン症の子供なんかも本当にかわいいもんな。だだをこねてもわがまま言っても邪気が無いから憎めない。成長、恢復してゆく過程に立ち会えりしたら、子育て・療育もこれに勝ることはないですよ。

で、結局大江健三郎氏の本でも眠れませんでした(何を謝るべきかはっきりしませんが、ごめんなさい! 大江様 m(_ _)m)。

やはり修身の本が良かったかな? 何故って? 退屈だろうし、「修身」は「就寝」に通じるから

.....やっぱ、その程度か! ムニヨ(´。`) \(-_-; ビシッ

いやいや、これは単なる日本だけの親父ギャグではありませんぞ。西洋で昔から眠れないときに、羊が一匹、羊が二匹と数えるのも、似たようなもの。sheep と sleep が発音が似ているからで、単なるダジャレ、国際的親父ギャグなのです。

羊が一匹ぐっすり寝ています。A sheep sleeps a deep sleep.

英文をトチらずに5回言えたら偉い! 滑舌の持ち主です

古来西洋では韻を踏むことを非常に重要視して、大事に韻律を教えてきたのです。シェークスピア然り、マザーグースも然り。ダジャレ、親父ギャグも、立派に韻を踏んだものが多い。日本の親父よ、ギャグが寒いゾ攻撃に負けるな! 胸を張って親父ギャグを!! (^)/ オ~!!!

鳥が何か落としていったよ フーン、何か臭いね ヘ~、..... やっぱ、サブッ

オヤジよ、センスを磨け! イヤ、そっちの扇子じゃない!! ダメダ、コリャ

オヤジシリーズ其の2： あゆの詩（うた） 県北のオヤジはゲンキ！？

（県北の延岡で療育ネット研究会を開いたときのメールから）

あゆ好きと 聞いて連れ行く 五ヶ瀬川

で、五ヶ瀬川にて「ほらほら、これが鮎で有名な五ヶ瀬川だよ。きれいな鮎が泳いでいるだろう、釣り方はね...」

「...アノ、好きなのは 浜崎あゆみ なんですけど...」

(^_^) (^_^? () (` _ ´ ;) (; ` _ ´ ; ; ; - _ - ; ; ; _ _ ; ;

ふぁいとー！！ 負けるなオヤジ、わが同志よ！ (` _ ´ #) / 押っ忍！

目指せ、地上の星 (` o ´) / オ-!!

食べるぞ、鮎の塩焼き \ (^ o ^) / オー！！

.....お後がよろしいようで m(_ _)m

7 . 本日のお題：ひな祭り

3月3日はひな祭り。娘さんと、かつて娘だった女性 etc. へのひな祭りのプレゼントです。お父さんから娘さんへもどうぞプレゼントにご利用下さい。面と向かっては言いにくいけれど、今は携帯メールで割と気楽にやれるかも。こんな詩があったよと

雛祭りの日に

谷川俊太郎

娘よ

いつかおまえの

たったひとつのほほえみが

ひとりの男を

いかすことも

あるだろう

そのほほえみの

やさしさに

父と母は

信ずるすべてをのこすのだ

おのがいのちを

のこすのだ

美人の三大条件に 1,健康 2,清潔 3,笑顔 というのがありました。笑顔が一番お金のかからない、そして一番効果的な心と体のお化粧です。ぶすっとした美人より、笑顔の素敵な... どうせなら 笑顔の素敵な * * ...

(^^;) \ (-.-; バキッ

駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい
自分で守れ
ばかものよ

(詩集「自分の感受性くらい」S52.から)

年取ってからも凄く美しい絵を描くことを夢見ていた彼女ですが、充分美しい絵
(詩)を描いて逝きましたよね。

...波が貝殻を残してゆくように
女たちはかたみを残し
生きたしるしを置いてゆく...

(娘たち より)

合掌 (-m-)

9 . 本日のお題 : 夏祭り

日本は夏祭りの季節でこどもが元気 センターの子どもも元気です
障がい児も障がい児である前にただの子供

She(He) is a cerebral palsy child.ではなく

She(He) is a child with cerebral palsy.です。

(cerebral palsy(CP) = 脳性麻痺)

療育センターの子どもも元気に祭りに参加しました。 今年の出し物は SMAP
の歌 : 「世界にひとつだけの花」

.....そうさ 僕らも世界にひとつだけの花 一人一人違う種を持つ その花を
咲かせることだけに 一生懸命になればいい 小さい花や大きな花ひとつとして
同じものはないから No.1にならなくてもいい もともと特別な Only one
これは、一昨年みやざき地域療育ネットワーク研究会が主催した荒垣勉さんのコン
サートでの彼のメッセージ「君だけの、君にしか生きることのできない人生がきつ
とある。ナンバーワンの人生じゃない、オンリーワンの人生が大切なんだ」という
オンリーワンのメッセージと同じです。マイナーだったこのメッセージを、若者に
超人気の SMAP が発信する意義は極めて大きい。時代の空気を作ってくれます。競争
だけが人生じゃない、みんなちがって、みんないいんだよ、と。そう、私たちは時
代を先取りしていたのです！！

我々の主張に時代が追いついてきたと自慢しつつ、「誰が作った歌？」と聞かれて「うーん、マキ...牧伸次だったかな？」と答えて墓穴を掘ってしまった(T_T)。(オイオイ、昭和のウクレレ漫談じゃないんだよ、槇原敬之だろう)。この歌が流行って、マスコミに少しは新垣さんの名前も出てくるかと思っていたのですが、ちっとも出てこない。SMAPが悪い訳(わけ)じゃないけれど、チョット残念。サラリーマン川柳に「SMAPを どの地図だと 聞くおやじ」というのがありましたが、(ゲノー界のスペシャルマップ...かな?) しかし、今更 SMAP 知らぬはいよね、いくらオヤジとはいえ

... とはいえ ... ウム... (` _ ´ ; ;

... しばし黙考 ... アブラアセ ; ; ;

ンム! めげるなオヤジ、わが同志よ! (` _ ´ #) / 押ッ忍!

目指せ、地上の星 (` 〇 ´) / オ-!!

行くぞ、ピアガーデン~ \ (^ 〇 ^) / オー!!

....と、訳(わけ)の分からぬ気合いを入れたところで、がんばろ~!!

10 . 本日のお題 : ひよこ

今年の年賀状に24年前に描いたヒヨコの絵をつけて送りました(歩き始めた子と生まれたばかりの子をヒヨコに見立てた、ありきたりの絵なんです)

すると新年早々電話:

「せんせ~、ひよこ飼ってるとね?」

「え”~ (` 〇 ´) ! ? え、え~ まあ」

「気をつけんと、大変じゃがよ~ あのね、ものすご~食べるとよ、餌代が大変じゃがよ~」

「あ、あ~ そうだね(確かに、よく食べるし金かかるわ~、特に受験戦争に巻き込まれてから大変)」

「それにね、すぐ大きくなるとよ。うるさいしね~」

「.. そうだね、その通りだ...(本当にすぐ大きくなった。おまけにうるさくなった。最近は親に説教しよる。電話でつっけんどんな対応をしていたら、横で聞いていたこどもから『オヤジ、そんな口の利き方はないだろう、相手に失礼だ!』と怒られた。マンション購入の押し売りなのに....)」

「はやく、始末した方が良く、長く飼っておくとなことないよ」

「ん、分かった。ご忠告有り難う..(まあ、始末するわけにはいかんが.. もうすぐ勝手に出て行くわ..)」

「じゃあね!」

「あ、いや、その...」



ガチャン

(´。`)y~~~~... フっ まあ、いいか、似たようなもんだ ..

11 . 本日のお題：職業病

其の一：身体障害者手帳一級

ミ口のビーナスを見て、「あ、両上肢の完全欠損。身障手帳の等級でいったら一級の重度障害相当かな」と思ってしまいました。とんでもない話ですが、最近宮崎市内にレプリカがお目見えし、その場所が、介護用品のお店の前。連想してしまうのも無理からぬ事とお察しの程を。障害としては一級でも美術品としては超一級、その素晴らしさにはいささかも揺るぎはない。あらためて、障害は本質ではなく属性にしか過ぎないと納得。ンダ、ンダ

其の二：筋

「恋というのは一つの芝居なんだから、筋を考えなきゃだめだよ」

by 谷崎潤一郎

さすがというか、潤一郎様は小説家。しかし、筋(すじ)を、思わず筋(きん)と読んでいた。いつも解剖を考えているわけではないのですが...

先日も、さる女性に「きれいな足をしていらっしゃるね」と言えばいいところを、「いい下腿三頭筋をしていらっしゃるね」と... あ、いえ、実際、滑(なめ)らかに浮かび上がった下腿三頭筋のレリーフが垂涎もので....

(^;) \(-.-; バキッ 足フェチか!

筋(すじ)と筋(きん)ねえ... 良い恋のためには、筋が大事... フムフム 恋は心の筋トレか!? ... 何か勘違いしているような気がしないでもないが.... マ、良いか 筋には違いない。

季節(とき)は春! 心の拘縮と廃用性の萎縮の予防のため、日々、心にもストレッチと筋トレを! 波瀾万丈の筋書き・人生を!!

結果に関しては当局は一切関知しな~い (^)/~~~~ ガンバレ~

ちなみに、今日の手術は筋・腱延長術。ストレッチがうまくいっていれば手術しなくて済んだものを.....

12 . 本日のお題：誤差範囲内

先日、日本リハビリテーション医学会にて感動的な特別講演を聴きました。小泉英明という脳科学者の「脳科学と教育」-研究の現状と将来展望-という題のお話です。デカルトに始まる要素還元から統合への科学的哲学論から地球生命圏の持続的発展のための環境問題と教育問題、日本が将来よってたつ発展の基盤はいかにあるべきか等々、こんなすごい発想の視野の広い日本人がいたんだ、ひょっとして

ノーベル賞に一番近い日本人ではないかと思わせる内容でした。う～ん、こんな人に日本の首相になってもらいたい！！

そのなかで、トリビア的におもしろかったのが、ほんの一億年の誤差でしかないという件(くだり)。宇宙誕生から137億年、太陽系誕生から45億年、地球生命誕生から38億年だが、大分測定も正確になって、137億年という宇宙の誕生に関する誤差はわずか一億年(!!)だそうです。一億年くらい違ってそれもそれは誤差範囲内というスケール。恐竜絶滅から6500万年、人類誕生から5~700万年なんて軽々と誤差範囲内に入ってしまう。一億年の誤差範囲内のその数千万分の一にも満たないわずか数十年の人の命.... そういえば日本の陸地面積も全世界の陸地の0.3%しかなく、これも誤差範囲内とか。つまりは日本沈没が起こっても世界の陸地面積を書き換える必要はないのかな? その中の数畳の生活空間 時間的にも空間的にも、誤差というにも当たらない余りにもちっぽけすぎる人生。この命 何をあくせく 明日をのみ思い煩(わずら)う...(´。`)y~~~~ だから... 日本の借金と比べたら誤差範囲内にも当たらないほどの飲み屋の借金, チャラにして! お小遣いも、誤差範囲内でいいから値上げを!! ... って、そもそもお小遣いが誤差範囲内の額... っか.. (T_T)

13. 本日のお題: 日本 !?

其の一 災害列島

この秋、日本は災害列島。全世界で起こる大きな地震の2割は日本とか。台風で亡くなった人の数が日増しに増えていっていたその矢先、こんどは地震。人が飲み込まれ、人間の建造物が紙切れのように壊れていきました。その時の光景をテレビで見た子供が、「地震で急にやってくるんだよな.... ボクらだって明日どうなるかわからないよなー あーなんだか、宿題とかするのムナシイ...」と寝っ転がる。台所で立ち仕事をする母親が、「それでも同じような明日がくると信じてやってくしかないんだよ....」とやさしく応える。そんなマンガが朝日新聞に載っていました。う～ん、深い! すごい人生哲学だ。確かにそう信じて生きていくしかない。願わくば明日が今日よりもいい日でありますように。そう信じて、被災地の皆さんと共に、明日がくると信じて今日を生きましよう、がんばれニッポン!!

其の二 オリンピック 身捨つるほどの...

感動のアテネオリンピック。技、肉体を極限まで磨き上げたアスリートの素晴らしさ、ドラマをオリンピックに堪能させて頂きました。そして、身を賭して勝負・記録に挑戦する姿、表彰台で日の丸を仰ぎ見る姿に、寺山修司の歌を思い出した人も多はず。

マッチ擦るつかのま 海に霧ふかし

身捨つるほどの祖国はありや

テロや戦争、民族間の争いの多発に、祖国や民族という概念は無い方が良いのではとも思いますが(祖国ではなく、せめて故郷(ふるさと)にとどめたい)、オリンピックやワールドカップとかになると、「がんばれにっぽん、ニッポン チャチャチャ!!」と応援してしまいます。

ところで、「マッチ擦る…」を読むと、どうしても私のイメージに浮かぶのは、ゴルゴ13。東欧の霧深い港町の早朝、まだ十分日の明け切らぬ刻。ハードな仕事をやり遂げて壁にもたれかかり、煙草をくゆらせるゴルゴ。その時、彼の脳裏をつかの間かすめた、有るか無きかの祖国への望郷の念。しかしそれは殆ど意識される事もなく、又記憶の闇の中に消えていく

(` _ ´)y~~~~Wow、it`s cool!

しかし、考えるに、彼はマッチではなく、いつもライターで火を付けていたような

(` . ´)y- シュバツ

...う~~ん、マッチ使ったことあるか、今度マンガ喫茶行って調べてこよう

(^ . ^)y~~~~ 100巻以上あるゾ~

この句も元ネタがあるらしい。富澤赤黄男 という人の「一本のマッチをすれば湖は霧」という類似句が指摘されている様子。でも、この俳句から浮かんでくるのは、布施明の「霧の摩周湖」かな? ワタシハ、ゴルゴ13ノ方ガ好き。どっちにしても、年代が知れる.... (^;)

最晩年に、寺山は“のぞき”の罪で捕まった時、「わたしは、路地裏の探索をしていただけだ」と釈明したらしい。重病の身でありながら、懲りない男。確かに表通りでやる事じゃない(人生の路地裏覗き?)

昨今もセレブによる覗き疑惑。極めてハイリスクローリターンの行為 社会的地位や収入まで反古にしてやることかい? 冤罪なら 無実の罪で余りにも多くのものを失った事になる。ソコデ 一句...

鏡見るつかのま 奥に闇深し

身捨つるほどの 覗(のぞ)きはありや

教訓: 李下に冠を正さず スカート下に鏡をかざさず

ミニスカートには近づくな!!

あら?、日本やオリンピックの高尚な話のはずが、どんどん下....

ヽ(´ー`)ノ

14 . 本日のお題：春爛漫

(1) 入学式

春は卒業式や入学式など式の多い季節、お祝いの言葉やら人前で挨拶せねばならぬ事も多々あり、ちょっと気が重い季節でもあります。でも今年はすてきな言葉をメールでいただきました。

>教室の黒板の上に「目指す子ども像」がよく掲げてあります。

>これはいい！と思ったのは、「教室は間違っているところ、失敗しているところ」という言葉が真ん中にありました。

目から鱗が落ちるような言葉ですネ。間違えると叱られるから、バツをもらうから、学校では間違っちゃいけない、失敗しちゃいけないんだ！と思いこんでいたけど、そうか、逆なんだ！ 学校だから(!!)失敗してもいいんだ、間違ってもいいんだ、そこから学ぶために学校はあるんだ。どうしてこんな当たり前のことに今まで気がつかなかったのだろうか？

いただきました！ 今年の入学式のお祝いの言葉に入れさせていただきました。どれだけ共感していただけたかは定かではありませんが、本当に、学校でが一番失敗してもいいところのはずですよ。家庭や学校で失敗できなかつたら、どこで失敗すればいいんだ?! 「失敗してもいいんだ、間違ってもいいんだ」と心のゆとりが持てて、間違ってもくじけず、そこから多くを学んで又のびのびとチャレンジできること。それが本当の「ゆとり教育」なのではないかしら？

(2) さくら

今年の桜は一斉に咲き誇り、それは見事でした

なのに、桜真っ盛り之時、まだ花粉症が抜けず、あんまり外に出られない

(´`;) グジュッ....ックシュン!

なおかつ、明日は雨で桜も散ってしまうとの予報。例年になく見事な桜に、日本人の血が疼(うず)く。逃してなるものか、昼がだめなら夜があると、とつぷりと日が落ちてから出かけました。公立大学から、芸術劇場に抜ける通りの桜は、一部花のトンネルにもなってそれはきれい。そぞろ歩きの夜桜見物、肩に花びら舞い落ちる。今宵会う人皆美しく艶(つや)やかで、ちと妖しい雰囲気。親友のドクターMに、「桜がきれいだよ~。仕事は切り上げて酒もって来~い！」と電話したら、大吟醸を抱えてやってきた。持ってきた器は採尿コップ(もちろん使用前!)。器が何であろうとおいしいものはおいしい。普段焼酎を飲み慣れた口に、大吟醸はとってもまるやかで豊穡な味わいでした。採尿コップに注いだビールは人間の体に入る前か後か、判別困難。「おしっこは血液が濾過されたものだから、きれいなものだよ。気にするな」とか言われても..... ちょっと気になるなア でも飲んだ(。^)

翌日は朝から雨。滑り込みセーフのお花見でした。

見逃した方、思い出に浸りたいかたへ 紙上お花見です。お酒は付きませんが、自分で用意して飲みながら朗詠、日本の美をご堪能ください（声に出して読むのは健康とぼけ防止に効果的だそうです）。

U_(^。^)/ カンパ~イ

鶯（いし）のうへ

三好達治

あはれ花びらながれ
をみなごに花びらながれ
をみなごしめやかに語らひあゆみ
うららかなの聲音（あしおと）空にながれ
をりふしに瞳をあげて
翳（かげ）りなきみ寺の春をすぎゆくなり
み寺の鶯（いらか）みどりにうるほひ
廂（ひさし）々に
風鐸（ふうたく）のすがたしづかなれば
ひとりなる
わが身の影をあゆまする鶯（いし）のうへ
（「測量船」）

「鶯のうへ」が淡い色彩の日本画の味わいとしたら（東山魁夷の絵かな？）、濃厚な油絵の雰囲気といわれるのが室生犀星の「春の寺」（こちらは梅原龍三郎か？）。日本人の感性からしたら、散り逝く美学の「鶯のうへ」でしょうが、ウン、どちらもいい

春の寺

室生犀星

うつくしきみ寺なり
み寺にさくられうらんたれば
うぐひすしたたり
さくら樹にすゞめら交（さか）り
かんかんと鐘鳴りてすずろなり。
かんかんと鐘鳴りてさかんなれば
をとめらひそやかに
ちちははのなすことをして遊ぶなり。
門もくれなみえんえんと
うつくしき春のみ寺なり。

あとがきにかえて

きれい事を並べて、障がい児の療育に携わっているという、何かとっても清廉潔白な素晴らしい人と見なされがちですが、残念ながらそんな人間ではないし、そんなレッテルを貼られて窮屈になるのも望むところではありません。自分に貼られたレッテルに縛られて行動して（もちろんなりたい自分になろうと努力することは大切です）だんだん本来の自分と違ってくるのもやばい。新川和江さんの「わたしを束ねないで」というすてきな詩（病棟の 瀬君の中三の国語の教科書に載っていました）もありますが、紹介する機会の無かった私の好きな詩の一つを最後に載せてあとがきに代えさせていただきます。介護に疲れ、親が子を、子が親を殺（あや）めたりする記事を見るときも、時々この詩が思い出されます。誠実（個人的努力）の手に負えなくなってしまう前に、何とかできることはなかったのかと

雪の日に

吉野弘

誠実でありたい。
そんな願いを
どこから手に入れた。

それは すでに
欺くことでしかないのに。

それが突然わかってしまった雪の
かなしみの上に 新しい雪が ひたひたと
かさなっている。

雪は 一度 世界を包んでしまうと
そのあと 限りなく降りつづけねばならない。
純白をあとからあとからかさねてゆかないと
雪のよごれをかくすことが出来ないのだ。

誠実が 誠実を
どうしたら欺かないでいることが出来るか
それが もはや
誠実の手には負えなくなってしまったかのように
雪は今日も降っている。

雪の上に雪が
その上から雪が
たとえようのない重さで
ひたひたと かさねられてゆく。
かさなってゆく。

15年間、何とかやってこれたのは皆さんの励まし、ご協力の賜です。あらためて感謝申し上げます。思い通りの仕事が出来た訳ではありませんが、ぼやきつつもそれを受け止めてくれる人、一緒にがんばったり励ましてくれる人の存在が私を支えてくれました。家庭で、仕事・職場で、プライベートで、酒の席で、お付き合い下さった全ての皆様に感謝申し上げます。

「寒いね」と 話しかければ 「寒いね」と 答える人の いるあたたかさ
俵 万智(「サラダ記念日」より)

m(_ _)m 謝々

著者：山口和正
医学博士
日本整形外科学会認定医
日本リハビリテーション医学会専門医

住所：宮崎市学園木花台南二丁目 14-1
E-mail アドレス：woodst@miyazaki-catv.ne.jp
Yamaguchi-k@pref.nagasaki.lg.jp

発行：2009年1月(丑年)

